

※ 解答は、《解答欄》に書きなさい。

ポイント

- ・表現の仕方について根拠を明確にして、自分の考えをもつ。
- ・心情を表す語句に注意して読む。

大野さんたちは、次の物語を読んで、感想を交流しました。

プチブーム——。美月がこの言葉を知ったのは、五月のある水曜日のことだった。

その日、美月は、母と二人、夕飯の支度をしていた。そこへ、部活動を終えた姉の芽衣が帰ってきた。いつもより少し遅い帰宅だった。靴を揃えた後、小声で「ただいま」を言う。そして、一目散に自分の部屋へかけ込む。「ご飯よ。」の声を聞くまで部屋からは出ない。芽衣は、こうするのが常だ。けれども、この日は、制服のまま母親と美月のいるキッチンに向かった。

芽衣は、何やら言いたげな顔をしている。何かあったのだろうか……。①案じる母と妹に、芽衣は、つい先ほど自分が体験したことをぼつぼつと話した。

ボランティア部に所属する高校生の芽衣は、梅雨入り前のこの時期、水曜日には決まって京川で活動している。公園やスポーツ施設が点在する京川の河川敷は、昔から休日になると多くの人々にぎわう。また、下流域に広がる葦の茂みは、野鳥の観察スポットとして知られている。三年前には遊歩道が延長され、以来、平日であつても天気の良い日にはお年寄りや親子連れの姿が目立つようになった。ところが、残念なことに、訪れる人が多くなればなるほど、捨てられるごみの量が増していた。

心を痛めた芽衣の先輩たちは、定期的に京川に足を運ぶようになった。その甲斐あつて、今では、河原全体が心地よく過ごせる場所変わった。

芽衣たちは、今以上に京川を美しくしたいと思い、活動を続けている。

夕刻、ふだんどおり、そろいのTシャツを着た芽衣たちが掃除をしていると、「お姉ちゃん。」という小さな声が耳に入った。

「えっ、何？」振り回いた芽衣の目の前に、うす黄色の大きな物が現れた。

「これ、……プチブーム。」

声の主は、幼い女の子だった。両手をめいづいばい伸ばし、夏ミカンを差し出している。

芽衣が反射的にそのミカンを受け取ると、女の子は②きびすを返し、土手に向かって駆け出した。

「えっ、何？」芽衣は、同じことをつぶやきながら、手にあるミカンと少女の後ろ姿とを交互に見た。

女の子は、土手の下で待っていた母親らしき人のそばで、一度、二度、勢いよく跳びはねた。そして、懸命に何かを話している。その様子をしばらく眺めていた芽衣は、右手にのせられたミカンの重みに気づき、我に返った。

「どうして、ミカンなの？ プチブームつて、何なの？」

ぶつぶつ言いながら、渡されたミカンを反対の手に取った。

ミカンが裏返しになった。

そこには、不ぞろいな大きさの、しかし、一字一字ていねいに書いたことが伝わってくる字があつた。

—— い、つ、も、あ、り、が、と、う ——

芽衣の心に温かな灯がともった。

六月のある金曜日、中学生の美月は校区内にある森の星幼稚園にいた。この日の五、六時間目、家庭料の時間は保育実習にあてられていた。元気いっぱい園児たちとの楽しい時間はあつという間に過ぎ、別れの時がやってきた。

ホールでお礼とお別れの言葉を交わした後、美月たちは玄関へと向かった。ホールを出たところで、美月は背後に人の気配を感じた。振り返ると、三人の園児が立っていた。美月が担当した三人だった。皆、満面の笑みを浮かべている。

「どうしたの？」

尋ねる美月に、真ん中にいた男の子が手を伸ばしてきた。小さな両手の上には、大きくて底の平べつたい夏ミカンがのつていた。

「せーの。」

「おねーちゃん、きよーは、どーも、ありがとー。」

三人のまつすぐな目と突然のお礼の言葉、そして、あまりに大きな声に、美月は一瞬たしろいだ。

「どーぞ。」

再び、三人の声が廊下に響いた。

「こちらこそ、どうもありがとう。今日は、とっても楽しかったよ。」美月は、両手でミカンを受け取りながら言った。

そして、思わずつぶやいた。

「これって、もしかして……、プチブーム？」

「そうだよ。プチブームだよ。」

真ん中の子が自慢げに返した。少し離れたところでその様子を見ていた園長先生が近づいてきた。

美月は、壊れ物に触るようにゆつくりとミカンを回し、いろいろな角度から文字を確かめた。側面には、黒いマジックで三人の園児の名前が書かれてあった。底には、赤いマジックでハートマーク。輪郭などおかまいなしに元気よく塗られた、いびつなハートがなんともかわいらしく見えた。

放課後、美月は、家路を急いだ。肩にかけたバックが揺れるたび、雨上がりのアスファルトのにおいをかき消すように、さわやかな夏ミカンの香りがした。

心躍る思いで家に着いた美月は、真っ先にリビングに向かい、テーブルの上にそつとミカンを置いた。

少しして、出かけていた母と芽衣が帰ってきた。二人が荷物を下ろすやいなや、美月は話し始めた。

「ねえ、見て、夏ミカン。今日ね、私も幼稚園でもらったの。ミカンを贈るプチブームつて、森の星幼稚園から始まったんだつて。園長さんが、去年の卒園式で、一人の園児からお礼の言葉が書かれたミカンをもらったのが始まりらしいよ。」

袋から何かを取り出そうとしていた芽衣の手が止まった。

「ものすごくうれしくて、温かい気持ちになった園長さんが、四月から、何かあるたびに、職員にメッセージ付きのミカンを渡したら、園内でちよつとしたブームになったそうよ。」

美月の話が一息つくと、母が語り始めた。

「この間、芽衣にミカンをくれた子も、森の星幼稚園の園児だったのかも知れないね。感謝の気持ちつて、声に出しても何かに託しても、きちんと相手に届くものだけれど、ミカンで表すのは新鮮で効果的だと思うわ。芽衣にミカンを渡した女の子は、きっと京川をきれいにしてくれるのがうれしかったんだらうね。」

母の声を聞きながら、美月は、今日の三人の笑顔を思い浮かべていた。

「そう言えば、芽衣。あの時のミカン、どうしたの？」

母の問い掛けに、芽衣はいつになくはきはきと答えた。

「食わずに、部屋に飾つてる。今も、かすかにだけど、いい香りがするよ。」

芽衣は、テーブルのミカンを手に取り、真っ赤なハートに目をやった。

「それにしても、プチブームつてすごいね。何かを期待してこみ拾いをしているわけではないんだけど、あの日、早ず知らずのだれかが幸せな気持ちになつてくれると知つて、本当にうれしかったわ。自分たちがしていることを認めてもらう経験つて、大事だよね。自信になるし、意欲もわくわ。」

芽衣は、一人一人の名前を確かめた。美月と同じように、大事そうにミカンを回しながら……。ほどなくキッチンには苦味を含んだ甘い香りに包まれた。美月は、心の中をさわやかな風が吹き抜けるのを感じた。

【三ページ】

1 ―線部①「案じる」の意味として最も適切なものを、次のアからエまでの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 思い込む イ たずねる ウ 気づかう エ 苦しむ

2 ―線部②「きびすを返す」は、反対方向に向きを変え動作を表します。「きびす」とは体のどの部分に当たるか、平仮名三字で書きなさい。

大野さんたちは、物語中の表現について、次のように話し合いました。

【話し合い】

大野 私は、芽衣が夏ミカンをもらった場面の、「（ア）」という一文に着目しました。この文より前では、突然ミカンを渡されたことに驚き、いぶかしむ芽衣の姿が描かれています。しかし、ミカンに書かれた文字を見て、芽衣の気持ちが一転します。女の子の（イ）の気持ちが芽衣の心にしつかりと伝わったことが感じられる表現だと思いました。

木田 僕も、大野さんと同じ点に注目しました。美月がプチャブームの由来となった、園長さんの体験について語る場面では、「（ウ）になった」という直接的な表現が使われています。同じ気持ちを表していても、直接的な表現と「（ア）」のような比喩的な表現とでは、受けるイメージが違ってきます。

里山 私は、「美月は、心の中をさわやかな風が吹き抜けるのを感じた。」という最後の一文も、印象的な比喩表現だと感じました。幸福な気持ちにひたる美月の様子が思い浮かびます。

3 【話し合い】の（ア）に入る一文を、物語の文中から十五字で抜き出して書きなさい。

4 【話し合い】の（イ）に入る言葉を、物語中の母の言葉から漢字二字で抜き出して書きなさい。

5 【話し合い】の（ウ）に入る言葉を、物語の文中から六字で抜き出して書きなさい。

シート 28 解答欄

第 学年 組 番 氏名

1

2

3

4

5

シート 28 正答例

- 1 ウ
- 2 かかと
- 3 芽衣の心に温かな灯がともった。
- 4 感謝
- 5 温かい気持ち